第34回

神無一族の氾濫

担当　神無七郎

今回の「氾濫」のお題は「玉が動いて王手する作品」。普通詰将棋では玉が動いて王手するのは開き王手だけですが、フェアリーだとどんな手段があるのか、その点に注目して解いてください。比較的珍しいルールもありますので、以下の説明をよくお読みください。

［ルール説明］

【安南】味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【安騎】自駒から八方桂の位置にある味方駒の利きに駒の利きが変わる。異なる複数の味方駒がある場合はそれらを合成した駒の利きになる。

【ばか千日手】先後協力して最短手数で初形に戻す。

【対面】敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる。

【キルケ】駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。

（補足）

・戻り位置候補が複数ある場合、取った側が戻り位置を選択できる

・成駒は生駒となって戻る

【Isardam】同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。

（補足）

・成駒と生駒は別の駒として区別する

・玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない（タイプＡ）

［今回の出題作について］

今回の作品の中で特に馴染みが薄いと思われる③④の「安騎」と、⑥の「Isardam」について補足します。

「安騎」は「安南」の拡張です。「安南」が直下にある味方の駒に影響を受けるのに対し、「安騎」は八方桂の位置にある味方の駒の影響を受けます。例えば③の16王は香の利き、35香は玉の利きになっています。

⑥で出題するIsardamは、玉取りより同種の敵駒の衝突回避が優先される「タイプＡ」と呼ばれるIsardamです。玉自身もこの優先度設定が適用される（玉による王手も可能な場合がある）ことに特に注意して解いてください。

懸賞

▼締切6月末日。呈賞5名。解答は編集部または左記のアドレスへ
E-mail：janacek789@ybb.ne.jp

▼評価点不要。短評歓迎。1題の正解でも呈賞の対象となるので解けた分だけでも解答を送って下さい。

▼今回は賞品として今年3月に刊行された「新約・神詰大全」を用意しています。別の賞品（図書カード）も用意していますので、当選時にどちらを希望されるかも解答にお書き添えください。

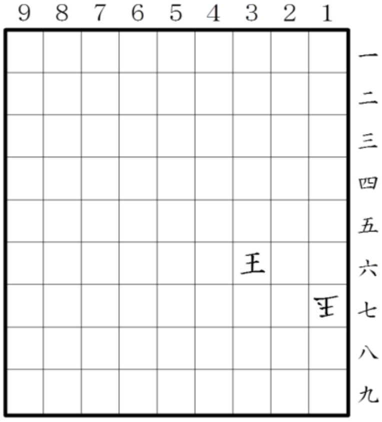
①神無三郎

ばか詰 47手

持駒 角 桂 歩2

②神無太郎

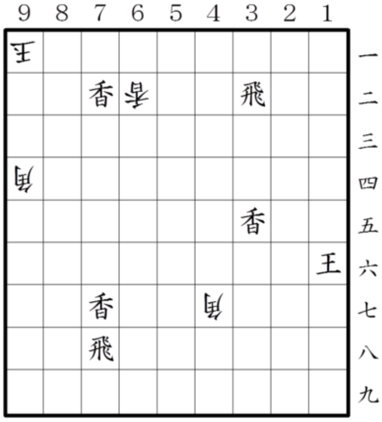
安南ばか詰 11手



持駒 桂4

③北村太路

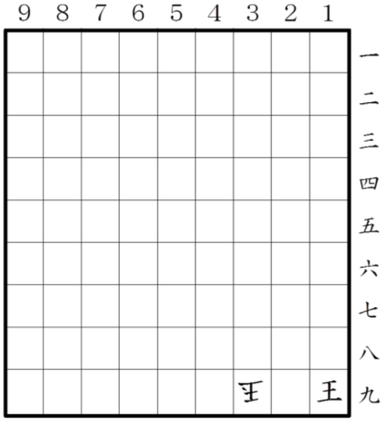
安騎ばか千日手 12手



持駒 なし

④神無七郎

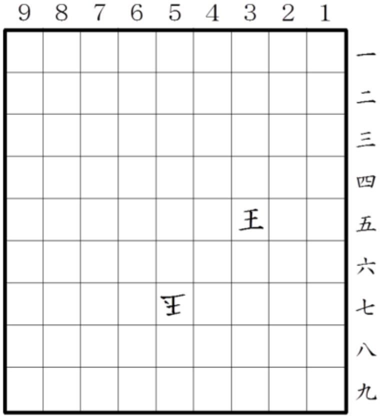
安騎ばか自殺詰 56手



持駒 金2

⑤たくぼん

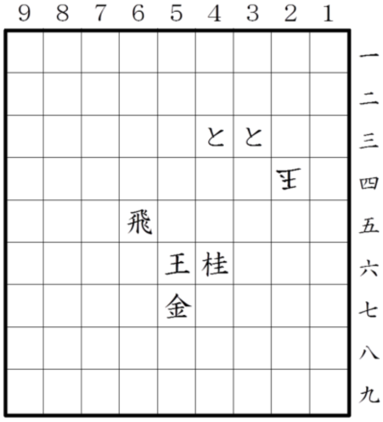
対面キルケばか自殺詰 14手



持駒 銀

⑥花井秀隆

Isardamばか自殺詰 8手



持駒 角